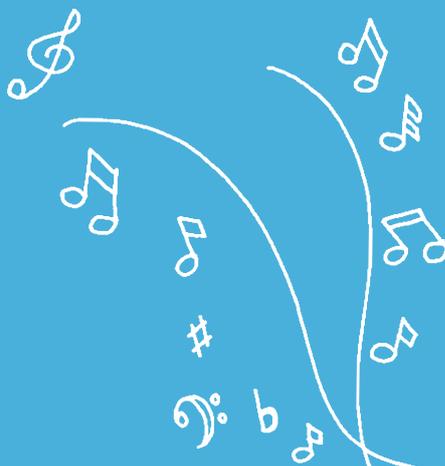


CSR REPORT

2018

デンソーテックグループ
CSR報告書 [ダイジェスト版]





社名「デンソーテン」の「テン」は、最高・至上を意味する「天」のことです。
中国古典の「中庸」に「誠は天の道なり。これを誠にするは人の道なり」という一節があり、
「誠」を企業経営の基本理念として大切にしています。

企業理念

私たちは、「誠」を大切に働きお客様・社会に貢献します。

○お客様第一 品質至上

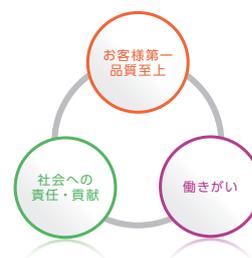
私たちは、お客様に役立つことを第一に考え、最高の品質で期待の先を行く商品を生み出します。

○社会への責任・貢献

私たちは、社会の一員であることを自覚し、企業活動を通してその責任を果たし、貢献します。

○働きがい

私たちは、一人一人が誇りを持って働き、能力を発揮し、達成の喜びを分かち合う「場」を実現します。



デンソーテングループ 企業行動宣言 (CSR方針)

私たち、デンソーテンは、製品の提供を通じて人と車のより良い関係づくりに貢献し、国際社会・地域社会から信頼される企業をめざします。この目標を実現するため、私たちは、「誠」を大切に、「デンソーテン企業理念」に基づくこの「デンソーテングループ企業行動宣言」を実践してまいります。

□お客様

お客様第一、最高の品質、期待の先を行く製品・サービス
安全性、品質の向上
個人情報の保護

□従業員

人権尊重
強制労働・児童労働の禁止
働きがいの実現
公正な労働条件、安全な労働環境

□取引先

共存共栄の実現
透明で公正な取引機会、公正な関係

□株主

企業価値の向上

□環境

環境負荷の低減

□社会

適切な情報開示
国際ルール、各地域のルールの順守
公権力との公正な関係
反社会勢力との関係遮断

□社会貢献

豊かな社会・地域づくりへの貢献

※「企業行動宣言」の全文は、「CSR報告書【詳細版】」および当社WEBサイトに掲載しています。

編集方針

デンソーテングループは、持続可能な社会の実現に向けた取り組みとCSRに関する情報をわかりやすく開示し、さまざまなステークホルダーの方々とコミュニケーションを図ることを目的に、毎年「デンソーテングループCSR報告書」を発行しています。

2018年版の「CSR報告書【ダイジェスト版】」(本PDF)は、2017年度における重要な取り組みやトピックスを中心に、コンパクトにまとめて報告しています。

また、より詳細な情報を網羅的に報告した「CSR報告書【詳細版】」を、当社WEBサイトで公開しています。

参考ガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」

環境省「環境会計ガイドライン(2005年版)」

ISO26000:2010 - 社会的責任に関する手引き
GRI「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン(第4版)」

報告期間

2017年度(2017年4月1日～2018年3月31日)の活動を中心に報告しています。ただし、それ以外の期間の内容も一部含まれます。

本報告書の想定読者

お客様、お取引先、従業員、株主、地域社会、行政などのステークホルダーの皆様を読者と想定しています。

報告対象組織

デンソーテングループ全体およびデンソーテングループ各社の活動を報告しています。ただし一部に、特定の範囲あるいは拠点のみを取り上げたデータや事例を含みます。

資本構成および社名の変更について

富士通デン株式会社は、2017年11月1日付けで資本構成を変更し、併せて社名を株式会社デンソーテンに変更いたしました。

将来に関する予測・予想・計画について

本報告書には、デンソーテングループの過去と現在の事実だけでなく、将来に関する予測・予想・計画なども記載しています。これら予測・予想・計画は、記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、これらには不確実性が含まれています。

したがって、将来の事業活動の結果や将来に惹起する事象が本冊子に記載した予測・予想・計画とは異なったものとなる恐れがありますが、デンソーテングループは、このような事態への責任を負いません。読者の皆様には、以上をご承知いただくようお願い申し上げます。

CONTENTS

企業理念	1
企業行動宣言(CSR方針)	
編集方針	2
トップメッセージ	3
事業のご紹介	
VISION2022:事業ビジョン	5
事業概要	6
特集:事業を通じた社会への貢献	7
デンソーテングループのCSR	10
重点課題分野の取り組み	
■消費者課題	12
■環境	14
■人権・労働慣行	16
■公正な事業慣行	19
組織統治	20
社会への貢献	21
財務報告/会社概要	22
事業所一覧	23
第三者意見/ご意見への回答	24

人とクルマと社会をつなぎ、 自由で快適なモビリティ社会の実現に向けて、 日々挑戦し続けます

デンソーテングループのビジョンは、事業活動を通じて、
『人とクルマ、社会とクルマをつなぎ、自由で快適なモビリティ社会の実現に向けて日々挑戦する』ことです。
その活動を通じて私たちも成長を加速させたいと考えています。

株式会社デンソーテン
代表取締役社長

岩田 啓志

クルマのICT化を通じて 付加価値を高め、社会に貢献

自動車産業を取り巻く環境は日々変化しています。電動化、自動運転、コネクテッド、シェアリングといった分野において世界レベルでの技術革新が急速に進むなど、激動の時代を迎えています。クルマが変わる、自動車業界が変わることにより、さまざまな企業が自動車メーカーとの連携を深め、自動車業界の構図の大きな変化が顕在化してきています。

このような環境の中、2017年11月にデンソーグループの一員として新たな一步を踏み出した当社は、変化をチャンス・チャレンジの機会と前向きに捉え、当社事業の成長につなげていきたいと考えています。

2017年には、国内携帯電話事業者が実施した、AIを用いて未来のタクシー乗車需要を予測する新たな配車システムの実証実験に参画したほか、車両の衝撃を検知するとスマートフォンに通知し、離れた場所でも自車の周辺状況を確認できるリモートマルチアングルビジョンの開発などにより、新たな価値を提供しました。

今後も、高度運転支援・自動運転技術および電子基板技術で当社の強みを活かし、Vehicle-ICTでクルマを人のベストパートナーにするべく、快適で安心・安全、環境にやさしいモビリティ社会の実現に貢献していくために、挑戦を続けてまいります。

CSR活動の取り組み

事業を通じて社会に貢献することを基本として、私たちは社会の一員であることを自覚し、企業活動を通じてより豊かな社会・地域づくりに取り組んでいます。2015年9月に持続可能な開発目標(SDGs)が国連総会で採択されるなど、CSRの重要性が世界的に高まっていることを受け、モビリティ社会の中でよりステークホルダーの期待や要請に沿ったデンソーらしい活動を進めていくために、私たちは2016年に優先して取り組むべき5つの重点課題を特定してCSR活動に取り組んできました。2017年度の取り組みを紹介します。

1. 消費者課題

2017年10月に、本社とデンソーテンマニュファクチャリング中津川工場が、製品安全に対する要求事項の明確化やリコール・不正に対する企業の社会的責任などが強化された新しい品質マネジメントシステム規格「IATF16949」の認証を取得しました。



2. 環 境

デンソーグループの一員として、ベクトルを合わせ一体感を持った活動を推進するため、当社の環境方針にデンソーグループの環境方針を反映させ、新たに「デンソーテングループエコビジョン」として、2017年11月に制定しました。2050年の温室効果ガスゼロエミッション達成に向けた2025年の目標として掲げた、「工場のエネルギーハーフ」や「有害化学物質の影響や廃棄物・水使用量の半減」、「環境に貢献する事業の推進・製品開発」などに取り組むことで、環境・エネルギー問題の解決と自然との共生を図り、人とクルマと環境のより良い関係づくりを推進します。

3. 人 権

幹部社員を対象に、「障がい者とともに働く職場づくり」をテーマに講演会を開催し、障がいの有無に関わらず、すべての従業員が活躍できる職場づくりについて教育を行ったほか、新入社員や階層ごとに人権に関する研修を継続して行いました。

4. 労働慣行

これまで、長時間労働抑制、柔軟な勤務制度、両立支援、女性・シニアの活躍推進など、さまざまな働き方の見直しに取り組んできました。2017年度は、『仕事×介護両立ハンドブック(基礎知識編)』の作成や各種セミナーの実施など、両立支援の取り組みを強化しました。

5. 公正な事業慣行

お取引先に対してオープンで公平な取引機会を提供するとともに、法令および契約を順守し、公正な関係を維持しています。また、従業員を対象に関連法令に関する教育を継続して行ったほか、幹部社員を対象とした「不正防止のためのマネジメントセミナー」を開催しました。

今後は、2030年をゴールとする「持続可能な開発目標(SDGs)」達成に向けて、当社が事業を通じてどのように貢献できるか、重点的に取り組む課題を明確にしていきます。

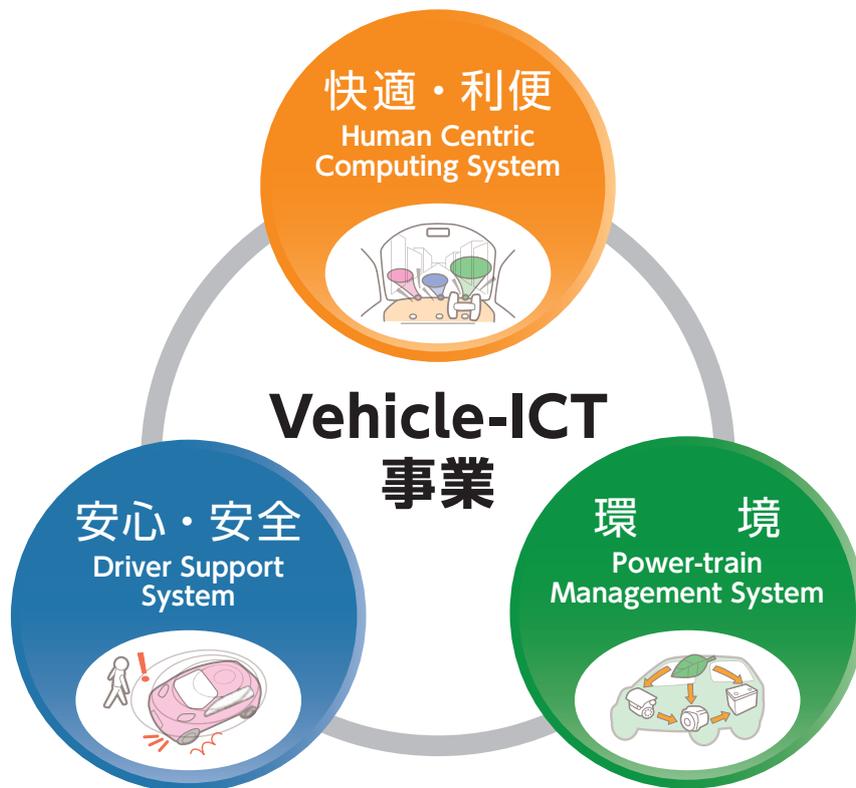
デンソーテンは今後も、グループ一丸となって国際社会・地域社会から信頼される企業をめざします。当社のCSR活動の源泉は、社是である『誠は天の道なり』であり、私たちは、ステークホルダーの皆様とのより良い関係づくりに努めるとともに、「誠」を中心としたお客様と社会への貢献という企業理念を追求し、持続可能な社会の実現に向けて、挑戦し続けます。また、私たちは常にお客様・パートナーとともに成長する企業でありたいと考えています。今後ともいっそうのご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

人とクルマと社会の間に、デンソーテン

デンソーテングループは、これまで培ったクルマづくりの技術とICTを活用した独自の「つながるテクノロジー」で人とクルマ、社会とクルマをつなぎ、自由で快適なモビリティ社会の実現に貢献していきます。

事業ビジョン

人とクルマ、社会とクルマをつなぎ、
自由で快適なモビリティ社会の実現に貢献します。




快適・利便

人にやさしい
情報提供システム


安心・安全

社会のネットにクルマを
組込む基盤システム


環境

地球を守る
パワートレイン制御システム

事業領域と製品

ICTによる情報の相互利用、シームレス化に適応し、一人一人に寄り添ったカーライフを実現します

快適・利便



CI事業 (Car Infotainment)

交通状況や駐車場の空き情報、目的地の天気をリアルタイムで情報提供。さらに、ドライバーの気分や健康状態を察し、その日、その人に最適な情報をベストなタイミングでお届けすることをめざしていきます。

カーナビゲーション、ディスプレイオーディオ、CDチューナー



音響システム・アンプ



後席ディスプレイ



ラジオアンテナアンプ



独自のセンシング技術と周辺監視技術により、クルマの安心・安全を社会全体に広げていきます

安心・安全



V-ICT事業 (Vehicle-ICT)

クルマと歩行者や街、道路情報をつなぐ安全運転支援システムの実現をめざし、事故を未然に防ぐ、万が一のダメージを最小限にするなど、さまざまな角度から安全運転をサポートする製品を生み出していきます。

マルチアングルビジョン



ミリ波レーダー



緊急通報システム



セキュリティシステム



クラウド型タクシー配車システム



クラウド連携ドライブレコーダー



燃費向上・CO₂排出量削減など移動エネルギーの最適化を実現し地球環境に貢献していきます

環境



AE事業 (Automotive Electronics)

燃費の向上や排出ガスの低減を実現させるシステムの開発に積極的に取り組んでいきます。多様に進化する動力源の効率化や制御する製品により、クルマはもちろん、街、社会全体のエネルギー利用を最適化していきます。

ハイブリッド専用 ECU



電動パワー
ステアリング ECU



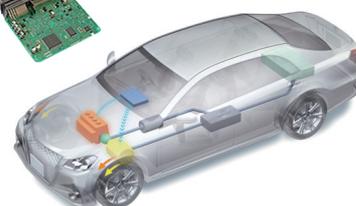
エンジン制御 ECU



エアバッグ ECU



バッテリー
マネジメントシステム



特集：事業を通じた社会への貢献

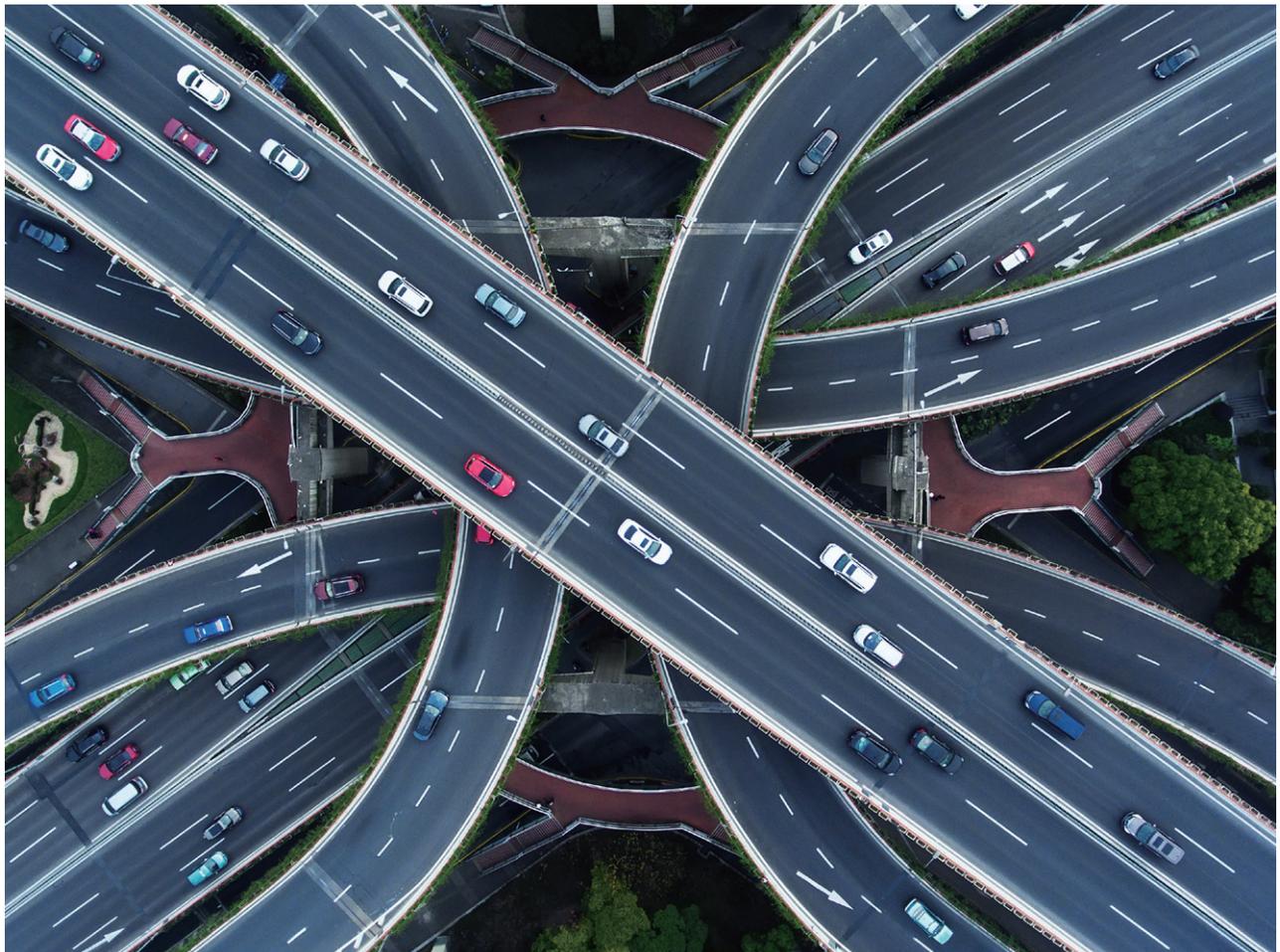
デンソーテングループは、豊かなモビリティ社会の実現に向けて、「安全・安心」「快適・利便」「環境」に関する製品・サービスをつくり出すことで、社会的課題を解決するとともに、新たな価値をお届けしています。

自動運転に欠かせない デンソーテンのセンシング技術

解決すべき社会的課題



3 すべての人に
健康と福祉を
もたらすこと
11 社会問題の発生
を予防すること
・交通事故の低減
・あらゆる人の安全な移動



自動運転機能やADAS (先進運転支援システム) は、交通事故の低減や渋滞の緩和、さらには高齢者の方の安全な移動などモビリティ社会における社会的課題の解決に寄与する運転の支援を目的としています。

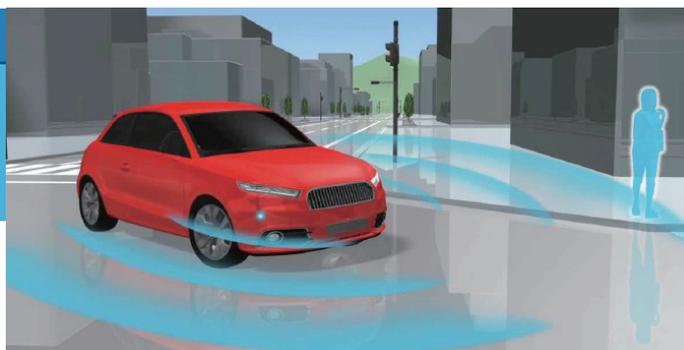
デンソーテンは、「環境」にやさしく「安心・安全」で「快適」なクルマで、豊かなカーライフを楽しめる社会の実現をめざし、自動運転に欠かすことのできないセンシング技術の開発に力を注いでいます。

そのコアとなるのが、ミリ波レーダーとマルチアングルビジョン。車両周囲のクルマや歩行者などの障害物、また路面上の駐車枠などを検知するセンサーとして、自動運転機能の一部となる駐車支援システムでの活用をめざして開発を進めています。

ここでは、2017年の第45回東京モーターショーに参考出展した2つの最新技術をご紹介します。

交差点での歩行者検知などで威力を発揮

前側方ミリ波レーダー (79GHz)



ミリ波を使ったレーダー技術は、前方を走行する車両との距離を測ったり、歩行者をいち早く検知したりと、自動運転には欠かせない技術です。

今回開発した前側方ミリ波レーダーの動作する距離は約80m、検知角度は105度と広範囲に電波を発射・受信できるため、交差点に近づく歩行者などをより早い段階で検知できます。車両前方はロングレンジのセンサーが担い、その他の方位をこのレーダーがカバーすることで、全方位に対応することが可能です。

また、最新の技術では、たとえば市街地でクルマと人が接近している場面でも、両者を分離して検知できるなど、角度精度や距離分解能力が向上しています。

前側方ミリ波レーダー検知イメージ



広範囲に電波を発射・受信できるため、より早い検知が可能



前方レーダーと組み合わせることで全方位に対応

■ミリ波レーダー開発の歴史

当社のレーダー開発の歴史は、前身である神戸工業時代にさかのぼります。1957年、南極観測船「宗谷」に搭載されたレーダーは、南極へ向かう途中、悪条件にも関わらず故障なく稼働、当社の技術力の高さを証明しました。以降、その研究分野を自動車にも広げ、1997年にはダンプトラック用に世界初の「60GHz帯ミリ波レーダー」を実用化。その後も小型化・高性能化を図りながら、後方用、前側方用など新たな製品を開発してきました。

これからも、60年以上にわたって開発を行ってきた強みを活かし、より高性能な製品の開発を通して自動運転の実現に寄与していきます。

1957

南極観測船 宗谷搭載レーダー



1997

世界初となる「60GHz帯ミリ波レーダー」を実用化、ダンプトラックに搭載



1999

「車載用76GHz帯ミリ波レーダー」を開発(2003年ホンダインスパイアに搭載)



2012

従来の約半分にまで小型化した「車載用76GHz帯ミリ波レーダー」を開発



Voice 従業員の声



79GHzレーダーの開発の狙いは、距離分解能UPによる検知性能の向上です。開発の結果、従来できなかった道路や車両の形状が検出可能になりました。

複数のレーダーを車両に取り付けて検知点をプロットすると、上空から地上を見ているかのように360度の周囲環境を描画できます。これまでにないポテンシャルを秘めたレーダーが誕生しました。

今後は、本レーダーの強みである高分解能を活かして、駐車スペースの探索など、自動駐車に必要な周辺監視レーダーの開発に取り組んでいきます。

VICT技術本部 第三技術部 アルゴ開発チーム 岡本 渉志

離れた場所から自車の周辺状況を画像で確認

リモート マルチアングルビジョン

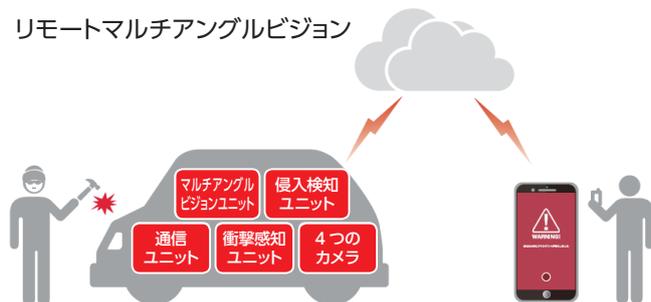
車体に取り付けた4つのカメラの映像と車体のCG画像を3D合成し、車両周囲を360度の立体的俯瞰映像で表示するマルチアングルビジョン(以下、MAV)。2015年には、ドライバーの視点からクルマのボディを透過したような見え方で死角を確認できる機能を追加するなど、安全なモビリティ社会の実現に向けて進化し続けています。



リモートマルチアングルビジョンでは、通信ユニットと衝撃感知ユニット、さらには侵入検知ユニットと組み合わせることで、盗難など車両が異常を検知すると自動でスマートフォンに通知し、離れた場所からでも自車の周囲の様子を確認することができます。

さらに、通常時でもスマートフォンからMAVを起動させ、周辺の状況を確認することが可能です。また、万が一事故が起きた場合に備えて、本体に内蔵されたメモリーに周囲の様子を録画しておくこともできます。

リモートマルチアングルビジョン



異常を検知するとスマートフォンに警告が届き、スマートフォンで周辺の状況を確認することができます

■マルチアングルビジョン開発の歴史

2010

世界初 3次元仮想投影視点変換技術を用いたマルチアングルビジョンを発表。プリウスなど多くの車種に採用



2015

ドライバーの視点から、ボディを透過したような見え方で全周囲を確認することが可能に



他機能との連携・統合により、自動運転の実現に貢献

今後は、センシング機能の追加により、さまざまな情報を収集・計測してより高度な安心・安全機能へ進化させようとしています。たとえば、MAVで使用しているカメラの画像認識技術で駐車枠や障害物を検知、ミリ波レーダーから得られる情報と統合してクルマの周囲の状況を認識し、車両制御と連携していく技術の開発を進めています。

こうした取り組みによって自動運転の実現に寄与し、「交通事故の低減」「あらゆる人の安全な移動」という社会的課題の解決に貢献することをめざします。

Voice 従業員の声



当社の3次元仮想投影視点変換技術を活かし、「いつでも、どこでも愛車の周辺状況を確認できる」をコンセプトに企画したのが、「リモートマルチアングルビジョン」です。

カメラ映像を送信してスマホなどの端末内で映像を合成することにより、遠く離れていても端末で車両の周辺映像を見ることができ、視点の切換えにも対応。録画機能も備え、防犯や全周囲ドライブレコーダーのほか、ドライブの思い出を記録することもできます。

本製品の量産化に向けて課題を解決しつつ、これからも魅力ある製品の企画・開発に注力していきます。

VICT技術本部 第四技術部 製品企画チーム 板東 史晃

デンソーテングループのCSR

デンソーテングループは、「『誠』の精神こそがCSR活動の源泉であり、CSR活動は企業理念に基づく事業活動そのもの」との考えのもと、さまざまな活動を通じてステークホルダーの皆様から信頼される企業をめざしています。

CSR重点課題の特定

2016年には、よりステークホルダーの期待や要請に沿ったデンソーテングらしい活動を進めていくため、当社に関わる社会的課題の中から「ステークホルダーにとっての重要度」「当社にとっての重要度」の2つの軸からマッピングを行い、優先的に取り組むべき重点課題（マテリアリティ）を特定しました。

また、グループとしての一体的なCSR活動をどのように進めていくべきか、方向性を議論する場として2017年1月からコーポレート部門の関係者による「CSR座談会」を、2017年7月からはコーポレート担当役員を交えた「コーポレートCSR会議」を、それぞれ定期的に行っています。

デンソーテングループのCSR重点課題



2017年度の取り組み

2015年に国連で採択された、2030年をゴールとする「持続可能な開発目標(SDGs)」達成のために、当社が事業を通じてどのように貢献できるか、検討を開始。2017年度は現在の当社のCSR活動とSDGsとの関連づけを行いました。

また、CSRに対する従業員の意識を把握するため、2018年2月にデンソーテング本社従業員を対象にアンケート調査(CSRサーベイ)を実施しました。

その結果、安全衛生・環境などの個別分野の活動はしっかりできているものの、CSR方針や企業行動指針に対する理解・浸透が進んでいないことがわかりました。

今後は、SDGsの各目標について、当社が事業を通じてどのように貢献できるか、重点的に取り組む課題を明確にするとともに、従業員に対する啓発活動を通じてCSRの浸透を図っていきます。



2017年度の主な活動と関連するSDGs

重点課題		2017年度の主な取り組み・成果	関連するSDGs	関連ページ
消費者課題	お客様データの保護	●「個人情報保護方針」に基づく規定の整備・従業員への周知徹底(継続)		P.13
	お客様満足度の向上	●本社とデンソーテンマニュファクチュアリング 中津川工場が、新しい品質マネジメントシステム規格「IATF 16949」の認証を取得 ●全従業員がQCサークル活動(小集団活動)を実施(継続)		P.13
環境	製品による環境への貢献	●「地球環境憲章」と「環境中長期VISION」を統合し、「デンソーテングループエコビジョン」として制定 ●マルチアングルビジョン用ECUをスーパーグリーン製品に認定	     	P.14・15
人権	人権の尊重(デューデリジエンス)	●新入社員の入社時教育や昇級時の階層別研修において、人権関連のプログラムを実施(継続) ●管理職を対象に「障がい者とともに働く職場づくり」をテーマに講演会を開催		P.16
労働慣行	人材の多様性(ダイバーシティ)	●各階層を対象としたダイバーシティの重要性に関する研修、ダイバーシティに関する意識調査、イントラネットを通じた情報発信を実施 ●仕事と家庭の両立への不安を解消し、将来のキャリアを考えるきっかけを提供するため、女性の若手社員と先輩社員との座談会を開催(継続)	  	P.16・18
	ワークライフバランス	●仕事と介護の両立が必要となる従業員の増加を踏まえ、『仕事×介護両立ハンドブック(基礎知識編)』を作成、管理職を対象としたセミナーを開催	 	P.17
	従業員の健康推進	●将来を見据えた疾病予防対策として、30歳までの若年層(新入社員、27歳、30歳)を対象に健康啓発セミナーを実施 ●受動喫煙防止の観点から、喫煙所の設置場所見直しや禁煙イベントに加え、職場へ出向いて実施する禁煙セミナーを合計27回開催		P.18
公正な事業慣行	公正・公平な取引	●協力会「天栄会」のテーマ研究部会で「サプライヤーBCP」の改善を提案	 	P.19
重点課題以外の取り組み				
	組織統治	●全幹部社員を対象に「不正防止のためのマネジメントセミナー」を開催		P.20
	コミュニティへの参画	●収集活動強化と従業員がボランティア活動に参加するきっかけの場づくり		P.21

ステークホルダーとの対話の機会

ステークホルダー	対話の機会・ツール	ステークホルダー	対話の機会・ツール
お客様	お客様訪問による情報交換 お客様相談窓口(電話・Eメール) ユーザーアンケートはがき 展示会(モーターショー/技術展示会)	株主	株主総会 各種説明会 事業報告書・アニュアルレポート
従業員	職場力向上アンケート イントラ社内報 上司面談 相談窓口(人権/キャリア/こころの健康) 定例労働協議会 コンプライアンスライン	環境	CSR報告書 近隣企業との環境交流会 環境展示会への出展 地域環境保全活動への参加
取引先	仕入先総会/生産動向説明会 天栄会(総会/各分科会) 自主点検調査(品質/環境/CSR) コンプライアンスライン	社会(地域)	定期的な対話会・情報交換会 地域行事への参加・協賛 工場見学・工場招待イベント 地域防災福祉コミュニティへの参画 地域社会への貢献活動

●お客様データの保護 ●お客様満足度の向上



お客様に役立つことを第一に考えます

お客様に役立つことを第一に考え、品質・安全性の向上に努めることで、期待の先を行く製品・サービスを生み出していきます。

また、お客様の個人情報を正当な方法により収集し、利用目的を明確にした上で厳重に取り扱います。

お客様相談窓口の取り組み

市販製品に関するお客様からのお問い合わせに対して、お客様相談窓口では「一人一人のお客様に寄り添う対応」を心がけています。

- つながりやすく、質の高い対応をめざしています。
- 着信直後にお問い合わせ内容に合う番号を選択していただくことで、相談内容に適したオペレーターへおつなぎしています。
- お客様の声を分析し、改善に取り組むとともに、社内へフィードバックしています。

WEB ECLIPSE お客様サポート

修理対応

国内では、全国92拠点の認定サービスショップ（以下SS）が製品の修理にあたり、全国7か所のフィールドサポートセンター（以下FSC）が故障診断など技術面でSSをサポートしています。海外では現地法人10拠点、FSC14拠点、SS90拠点の体制を構築し、地域に密着したサービスを提供しています。

- SSおよび集中修理拠点のスタッフを対象に、サービス技術力に関する認定試験を毎年実施することで、サービスレベルの維持・向上に努めています。
- 「早く・安く・確実な修理」をめざしています。最小部品単位での修理を行うことで、安価な修理価格を実現しています。

2017年度の取り組み

- より高度な修理技術が必要とされるBGA-ICについても修理対応製品を拡大。新たに加わった修理対象基板の修理手順などを記載したマニュアルを国内外の修理拠点に提供し、いっそう安価な修理、廃棄部品量のさらなる削減につなげました。



Voice 従業員の声

第二サービス部 FS東日本統括室は、「迅速かつ丁寧に」をモットーに、お客様目線での対応を心がけるとともに、販売店やサービス店には、技術的なアドバイスの提供や故障診断を通じ、信頼関係の強化に努めています。一方、FSセンターは、販売店やサービス店で得られた貴重なお客様の声を社内へ展開することで、より良い製品づくりに貢献しています。

今後も、お客様に当社の製品を選んでいただけるよう、チーム一丸となって取り組んでいきます。

第二サービス部 FS東日本統括室 **中本 大樹**

お客様データの保護

当社グループは、お客様の氏名、住所、メールアドレスなど特定の個人を識別できる個人情報を適切に取り扱うことは、企業としての社会的責務であるという認識のもと、「個人情報保護方針」に基づいて規定を整備し、個人情報保護の取り組みを実施しています。

さらに、カーナビゲーション本体内にはお客様の個人情報が含まれることから、SSにも管理責任者の設置など、個人情報保護の取り組みを義務づけています。

WEB 個人情報保護方針

品質・製品安全の追求

お客様に信頼され、ご満足いただける商品をお届けするため、国際品質マネジメント規格に基づく品質保証体制をグローバルに展開し、国内外の各拠点で品質向上のためのサイクルを回しています。このような取り組みの中で、「デンソーテングループ製品安全憲章」に基づき、製品企画から量産にいたる各段階で、品質および製品安全面の確保を行っています。

●設計、生産、品質保証の役割・連携責任を決め、自工程完結により品質を担保する体制を構築しています。

TOPICS

2017年10月6日、本社およびデンソーテングループマニュファクチャリングの中津川工場を対象として、自動車産業の新しい国際的な品質マネジメントシステム規格である、IATF16949の認証を取得しました。これにより、同規格の認証取得範囲は国内2社3拠点、海外11社になりました。
(2018年9月現在)

この新規格においては、自動車に組み込まれたソフトウェア製品への対応、製品安全に対する要求事項の明確化、リコール・不正に対する企業の社会的責任、リスク思考などが強化されています。



Voice 従業員の声

QCサークル活動は、「人財育成・職場活性化・会社貢献」の本理念のもと、品質管理手法を使い、メンバーと協力して職場の問題・課題を解決していく活動です。

私たちは、「効果にコミットする!サークル」として粘り強く活動を進めたことで成果を上げることができ、2018年2月に「QCサークル近畿支部・チャンピオン大会」に参加。「優秀賞」をいただき、大変良い経験になりました。今後もこの経験を活かして、活発に取り組みたいと思います。

生産本部 生産調査室 村上 久寿、ミア 智恵

●製品による環境への貢献



美しい地球を次の世代に引き継ぎます

地球規模での環境保全の必要性を深く認識し、
企業活動のあらゆる領域で環境負荷低減を進めます。

TOPICS

デンソーテングループ エコビジョンを制定

デンソーグループの一員として、ベクトルを合わせ一体感を持った活動を推進するため、2017年11月に、従来の「地球環境憲章」と「環境中長期VISION」を統合する形で、新たに「デンソーテングループ エコビジョン」を制定しました。

このエコビジョンでは、2050年の温室効果ガスゼロミッションをコミットするとともに、その達成に向けた2025年の目標として、「工場のエネルギーハーフ」や「有害化学物質の影響や廃棄物・水使用量の半減」、「環境に貢献する事業の推進・製品開発」などを掲げました。

これに伴い、デンソーグループの環境行動計画および当社を取り巻く環境変化を踏まえ、2018年7月に「環境取り組みプラン」を見直しました。

デンソーテングループ エコビジョン (抜粋)

I. コミットメント (~ 2050年)

デンソーテングループは、環境と経済の両立が経営の重要課題と認識し、全ての企業行動を通じて、環境・エネルギー問題の解決と自然との共生を図り、人と車と環境のよりよい関係づくりを推進します。また社会が直面する重要環境課題に果敢に挑戦し持続可能な地域・社会に向けた、新たな環境価値を創造し、地球を守り、次世代に明るい未来を届けます。

コミット2050:温室効果ガスの人為的な排出と吸収のバランスを達成する(ゼロミッション)

II. 環境方針 (~ 2025年)

ターゲット3	基本方針	コミット2025
エネルギー1/2	地球温暖化やエネルギー・資源問題を解決する技術で、地球環境の持続的な維持に貢献します。	・車のCO ₂ 半減に貢献 ・エネルギーハーフ推進
クリーン×2	全てのステークホルダーの皆様に安心して頂けるよう、順法はもとより、継続的改善を進め社会と共に成長する企業であり続けます。	・有害化学物質の影響や排出物・廃棄物・水使用量の半減を推進 ・自動車の排出ガス低減技術の開発
グリーン×2	豊かな自然を次世代に引き継ぐため、自然との共生を目指した企業活動を通して、自然の叡知・恩恵を分かち合う社会を実現します。	・環境に貢献する事業の推進・製品開発 ・緑化の推進

W E B デンソーテングループ エコビジョン

W E B 第8期デンソーテングループ 環境取り組みプラン

Voice 従業員の声



2020年以降の地球温暖化対策の国際的枠組みを定めたパリ協定にて、21世紀後半には温室効果ガスの排出を実質ゼロにすることが目標となりました。

そこで、デンソーグループとしては2050年に温室効果ガスの排出ゼロ達成というチャレンジ目標を掲げ、2025年にエネルギー1/2の実現に向けたビジョンをテングループとしても制定しました。

これは今までのやり方では達成し得る目標ではありません。地球のため、未来に生きる子どもたちのために、企業として「できることをやる」ではなく、「達成するためには何をすべきか」という考え方でテングループ全員が意識を変え、目標達成に向けて取り組みます。

コーポレートセンター 地球環境室長 若林 祐幸



グリーンプロダクツ

製品の環境負荷低減を図るため、法規制のある物質や材料を使わないよう設計部門にて製品環境アセスメントを実施しています。

さらに、製品自体の省電力化、小型・軽量化などの評価を実施し、一定基準をクリアした製品を「グリーン製品」と定義し、グリーン製品の中でも環境配慮のレベルが自社あるいは他社の製品と比較してトップグループレベルにあるものを「スーパーグリーン製品」とする社内基準を整備してエコデザインを推進しています。

2016年度からは「機能そのものが環境負荷低減につながる製品（環境貢献製品）」も社内基準に含めました。

TOPICS

マルチアングルビジョン用ECUをスーパーグリーン製品に認定

自動車メーカー様向けマルチアングルビジョン用ECUについて、部品の小型化やシャーシの材料変更などにより、前モデル比43%の小型化と35%の軽量化を達成しました。



車両周辺を直接確認してください
マルチアングルビジョン



体積：538cm³
重量：730g



体積：308cm³
重量：476g

43%削減

35%削減

Voice 従業員の声



車両周辺の安全確認を支援するマルチアングルビジョンにおいては近年、安全性はもちろん、環境に関わるニーズが高まっています。そこで、高性能かつ小型・軽量化を実現する製品を開発しました。開発にあたり、従来の安全性の考え方を踏襲しつつ、マイコンの統合、小型部品の採用を図るなど、すべてのシステム、部品を見直しました。

今後は自動駐車・自動運転などの運転支援システムの開発においても、この経験を活かしていきたいです。

VICT技術部 第四技術部 第二技術チーム 吉本卓己

- デューデリジェンス (人権の尊重)
- 人材の多様性 (ダイバーシティ)
- 従業員の健康推進
- ワーク・ライフ・バランス



一人一人の「働きがい」を大切にしています

従業員一人一人の人権が尊重され、それぞれが能力を発揮しながら、誇りとやりがいを持って働ける職場づくりをめざします。また、すべての従業員に対して公正な労働条件を提供した上で、安全かつ健康的な労働環境の維持・向上に努めます。

人権の尊重

グローバル企業として、企業行動指針や企業行動宣言 (CSR方針) に「人権の尊重」をうたい、「人種、皮膚の色、宗教、信条、性別、社会的身分、門地、障がい、性的指向などによる差別や人権侵害行為、強制労働や児童労働を行わないこと」を明記しています。

- 新入社員や階層ごとに人権に関する研修を実施するとともに、毎年12月の人権週間にはポスター掲示などを通じて、従業員の意識の啓発に努めています。

2017年度の取り組み

- 「障がい者とともに働く職場づくり」をテーマに管理職対象の講演会を開催し、障がいの有無に関わらず、すべての従業員が活躍できる職場づくりについて学びました。

多様性 (ダイバーシティ) の受容

従業員一人一人の多様性を受け入れ、活かすことは、「個人の成長」につながるとともに「企業の競争力強化・成長」をもたらすという考えのもと、ダイバーシティ推進室が中心となって、多様性を尊重する「企業風土の醸成」と「ワークライフバランスの推進」「個人の自立・活躍の支援」に取り組んでいます。

2017年度の取り組み

- 各階層を対象としてダイバーシティの必要性や重要性に関する研修を実施したほか、ダイバーシティに関する意識調査の実施や社内イントラネットを通じた情報発信など、従業員の意識・風土改革に積極的に取り組みました。



Voice 従業員の声

アンケートの結果、多くの従業員が介護に関する不安を持っていることがわかり、『仕事×介護両立ハンドブック (基礎知識編)』(→P.17)の作成やセミナーを開催しました。

介護はいつ当事者になるかわかりません。ハンドブックを読んだ人に、身近な問題と捉えてもらい、必要な知識を得たり、事前準備をしたりしておくことで、仕事と介護の両立は可能だと感じてもらえるような内容をめざしました。今後も、働きやすい会社をめざし、取り組みを充実させていきます。

コーポレートセンター 人事総務部 人財開発グループ ダイバーシティ推進室 高橋 麻由



ワークライフバランスの推進

従業員それぞれがライフスタイルやライフステージに応じた多様な働き方を実現し、家庭と仕事を両立することができるよう、さまざまな施策を展開しています。具体的には、育児・介護休職制度をはじめ、各種制度を整備・充実させるとともに、それらの制度の利用を促進するための情報発信や意識啓蒙などを行ってきました。

このような継続的な取り組みの結果として、2015年5月、当社は兵庫労働局より、「次世代育成支援対策推進法」に基づく特例認定（プラチナくるみん認定）を受けました。



特例認定マーク
(愛称：プラチナくるみん)

- 育児中の従業員がやりがいを持って働けるよう、育児休職者と休職前・復職前・復帰後の3回にわたり行う面談制度や、研修機会を提供しています。
- メリハリのある働き方実現に向け、定時退社日の設定や年次休暇の取得促進に取り組んでいます。
- 従業員の子どもが親の職場を見学する「子ども参観日」を毎年開催しています。

2017年度の取り組み

- 介護との両立が必要になる従業員が増えることを踏まえ、『仕事×介護両立ハンドブック（基礎知識編）』を作成し、管理職を対象としたセミナーを開催しました。

TOPICS

介護との両立を支援する取り組みを強化

当社はこれまで、通算1年間の介護休職制度（分割取得可能）や、介護を理由とした短時間勤務の期間の上限撤廃など、仕事と介護の両立のための各種制度を整備、拡充してきました。しかし、意識調査の結果、多くの従業員が介護に関して不安を持っていること、また知識が不足していることがわかり、取り組みの強化に着手しました。

2017年度は、介護に関する基礎知識や当社の支援策をまとめた冊子『仕事×介護両立ハンドブック（基礎知識編）』を作成し、イントラネット上で全従業員に公開したほか、管理職を対象に仕事と介護の両立支援セミナーを開催しました。

このハンドブックやセミナーは介護に携わった経験のないスタッフが企画を担当。介護経験の有無に関わらず、管理職にも身近な問題として捉えてもらい、自分が介護に直面した時に役立つ知識を得ることはもちろん、部下から介護に関連した相談を受けた際にも、スムーズな対応が可能になることを念頭に構成しています。

イントラネット上で閲覧可能な
『仕事×介護両立ハンドブック（基礎知識編）』





女性の活躍推進

個人の自立・活躍を支援する施策の一環として、女性の働きやすい職場づくりに努め、女性の採用継続、職域の拡大、仕事・育児の両立を支援する制度の整備・拡充と、制度を利用する風土の醸成などに取り組んでいます。

- リーダーシップを発揮するために必要な意識改革と社内ネットワークづくりを狙いに、女性従業員向けの研修を実施するとともに、その上司を対象とし、女性の部下育成のノウハウ習得のための研修を実施しています。
- 若年層の女性には、自身の今後のキャリアについて考える機会として、先輩社員との座談会や、社外で活躍する女性管理職と交流を行うフォーラムを開催しています。
- 採用や継続就業、多様なキャリアコースなど、女性の活躍推進に向けた取り組みが評価され、2016年7月、厚生労働大臣より「えるぼし」企業として認定を受けました。



Voice 従業員の声



「女性がイキイキ働くこと」をテーマとした研修やワークショップに参加し、個々に異なる背景を持ちつつ、さまざまなフィールドで活躍する女性と交流しました。当時、育休から復職してキャリアを模索中でしたが、女性を支える行政や会社の取り組みを知ることでもでき、無意識のうちに自分から限界や制約を設けていることに気づきました。

その後の管理職登用の機会にも、子育てとの両立に組み合わせながらチャレンジできたことは、ひとつの自信につながったと感じています。

営業本部 OEM営業部 EX 中村 友美

心と体の健康支援

「従業員の健康確保は経営の基盤である」という認識のもと、従業員それぞれの健康意識を高め、心身両面にわたる自主的な健康づくりを支援しています。2014年度下期から、支援の施策を「健診・治療」から「心身の疾病予防活動」へ軸足を移してきました。

- 定期健康診断、年齢・職場環境に応じた目的別健康診断やメンタルヘルスのケアなどを行っています。

2017年度の取り組み

- 健康診断の結果を踏まえ、将来を見据えた疾病予防対策として、30歳までの若年層（新入社員、27歳、30歳）を対象に健康啓発セミナーを実施しました。
- 受動喫煙防止の観点から、喫煙所の設置場所の見直しや禁煙イベントに加え、職場へ出向いて実施する禁煙セミナーを合計27回開催しました。
- 産業医の海外巡回の機会を利用して、海外駐在員を対象に、健康意識の向上を目的とした教育を実施しました。

●公平・公正な取引



お取引先との公正な関係を維持します

お取引先に対してオープンで公平な取引機会を提供するとともに、法令および契約を順守し、公正な関係を維持するとともに、長期的な視野のもと、相互信頼に基づく共存共栄の実現に取り組みます。

お取引先とのパートナーシップ

デンソーテングループは、企業行動宣言（CSR方針）に「サプライヤーなどの取引先の尊重」「長期的な視野に立った相互信頼に基づく共存共栄の実現」「オープンで公平な取引機会の提供」「法令・契約を順守し公正な関係を維持すること」を明記しています。

これを受けて、調達方針および重点取り組み事項、またお取引先へのお願い事項を、仕入先総会などを通じて、お取引先に周知をお願いしています。

また、仕入先総会では、優れた実績を修めたお取引先に感謝状を贈呈しています。

TOPICS

天栄会 テーマ研究部会で「サプライヤー BCP^{*1}」の改善を提案

お取引先95社とデンソーテンから成る協力会「天栄会」では、会員各社と当社の双方に共通する「重要課題」をテーマに掲げたテーマ研究部会が複数活動しています。

そのひとつとして、2017年度は、第一部会が「サプライヤーBCPのレベルアップ」を取り上げ、「2次・3次のお取引先におけるSCR-Keeper^{*2}運用の改善」、「火災など地震以外の災害・事故発生時における、SCR-Keeper運用の課題」について検討し、サプライヤーBCPの底上げを提案しました。



「2017年度テーマ研究部会活動報告会」で発表・提案

*1 BCP (Business Continuity Plan): 事業継続計画。自然災害をはじめとするリスクの発生に際し、重要な事業の中断を防ぎ、仮に中断した場合もできるだけ短い期間で復旧させるための方針、体制、手順などを示した計画のこと

*2 SCR-Keeper: 富士通株式会社が発行するサプライチェーンリスク管理サービス

Voice お取引先の声



当社は、各種半導体・デバイスや計測機器の販売を行うほか、お客様へのご提案、技術開発サポートなどを通じ、新事業・新スキームの創出に取り組んでいます。

この度、ビステル株式会社、NXP ジャパン株式会社と共同して、FM/AM/DABを統合し、小型化とコスト低減を図ったラジオ専用ICの開発に成功し、「2018年仕入先総会」にて技術開発優秀賞をいただきました。

今後も技術サポートなどのいっそうの強化を図り、協力企業と連携して付加価値の高いご提案を行ってまいります。

バイテックグローバルエレクトロニクス株式会社 取締役 鈴木 俊幸 さん

「誠」を大切にして、社会的責任を果たします

トップのリーダーシップのもと、社会的責任を果たすしくみを整えるとともに、国際社会・地域社会から信頼される企業にふさわしい組織文化を育みます。

社会・地域から信頼される企業をめざして

従業員のあるべき行動を示した「グループ企業行動指針」を定め、ステークホルダーの皆様に対する責任と、企業グループとしてのあるべき姿を宣言する「グループ企業行動宣言 (CSR方針)」を策定しました。これらの運用により、ステークホルダーの皆様とのより良い関係構築に努め、「誠」を中心としたお客様と社会への貢献という企業理念を実現していきます。

WEB デンソーテングループ企業行動宣言 (CSR 方針)

コンプライアンス

当社グループは、事業活動に関わる法規制などを明確化するとともに、社内ルール、教育プログラム、監視体制を整備し、グループ全体でコンプライアンスを推進しています。

2017年度の取り組み

- わが国の製造業においてコンプライアンスに関連した問題が発覚している状況を踏まえ、課長級以上の全幹部社員を対象として、「不正防止のためのマネジメントセミナー」を開催。延べ424名が参加しました。

情報セキュリティ

情報漏えいなどのリスクに対応し、各種規程の整備や監査を実施するとともに、全従業員を対象としたeラーニングによる教育など、情報セキュリティの強化に努めています。

- ISMS国際規格 (ISO/IEC27001など) *をベースに、情報管理マネジメントシステムを構築・運用。全社で自己点検・監査を実施しています。
- 全パソコンにウイルス対策ソフト、ネットワーク接続パソコンにセキュリティ状況をチェックするしくみを導入し、情報漏えいを防止しています。
- 月1回の「セキュリティ Day」にセキュリティ統制室がさまざまな情報を発信し、意識の啓蒙に努めています。

* ISMS (Information Security Management System : 情報セキュリティマネジメントシステム)に関する国際規格

2017年度の取り組み

- 情報セキュリティの重要性について、従業員一人一人の意識を高めるため、「情報管理 徹底宣言！」シールを作成し、各部署のパソコンへ貼付しました。

より豊かな社会・地域づくりに向けて

「私たちも社会の一員である」という自覚のもと、企業活動を通じて、より豊かな社会・地域づくりに貢献します。

2017年度の取り組み

- 従業員誰もが気軽に参加できる「収集活動」の強化と、従業員がボランティア活動に参加するきっかけの場づくりに取り組みました。
- 当社の9人制女子バレーボール部「レッドフェニックス」によるバレーボール教室の開催や、神戸マラソンでの給水ボランティア、中高大学生の音楽イベントへの協力などスポーツ・文化活動にも取り組みました。
- 環境貢献活動においては、「社員が社会とともに取り組む社会貢献活動」「生物多様性などの社会・環境課題の解決に取り組む活動」として、それぞれ「1件以上/拠点」を目標とし、その目標を達成しました。



工作教室では、水陸両用車づくりを当社スタッフがサポート（2017年8月、神戸本社）



山野ビッグバンド・ジャズ・コンテストをはじめ、さまざまな音楽イベントに協賛



障がい者と健常者がバレーボールを体験し相互理解を深める「障害者バレーボールミーティング」に参加



デンソーテン ソリューションズ フィリピン (TNSP) では、ウミガメの赤ちゃんを放流

Voice 従業員の声



神戸マラソン 給水ボランティアに参加して

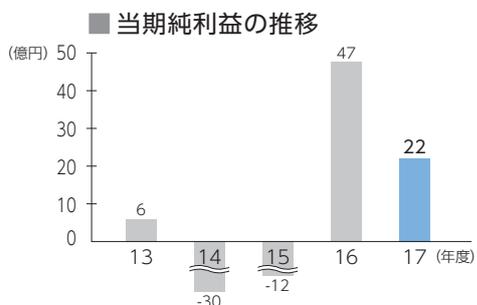
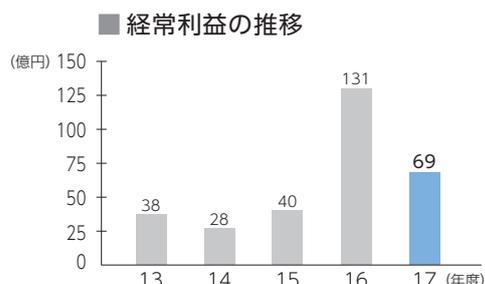
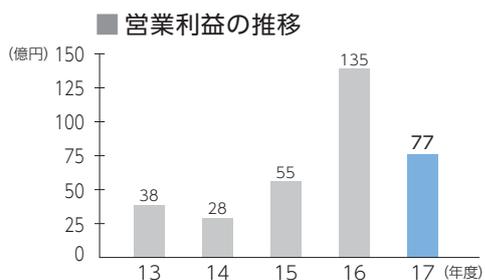
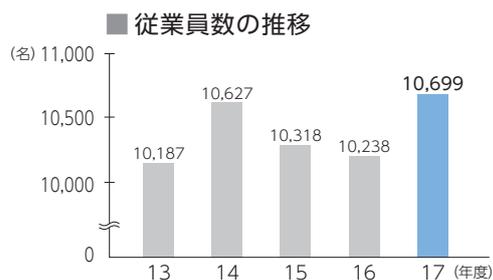
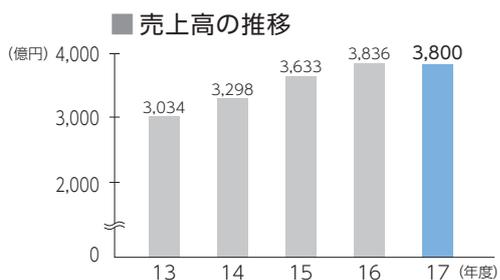
神戸マラソンのランナーのために少しでもお役に立つのであればと思い、初めて給水ボランティアに参加しました。

別の大会でマラソンを走った経験があります。今回は逆の立場で大会に参加したことで、ボランティアの苦労を知ることができ、また少しは恩返しができるのではないかと感じています。

このような機会を提供いただいた事務局の方々に感謝するとともに、これからも積極的にボランティアなどの社会貢献活動に参加していきたいと思っております。 **デンソーテン労働組合 濱岡 弘文**

■ 財務報告 (連結)

※記載金額は表示単位未満の端数を四捨五入して表示しています。



決算概況

当期は、新体制への移行をスムーズに行うとともに、力ある成長の土台をつくる年と位置づけ、事業の基盤づくりに取り組んでまいりました。

当期の業績は、カーナビゲーション・オーディオなどOEM製品のモデル切替えにより、連結売上高は3,800億円と前期比0.9%、36億円の減収となりました。損益については、売上減による粗利減に加え、先行技術開発への投資増加等により、営業利益は76億8千万円、当期純利益は22億円となりました。

次期の業績については、円高による為替影響を見込むものの、開発の効率化や経費削減効果等により、売上高3,594億円、営業利益89億7千万円、当期純利益53億円を見込んでいます。

当社事業領域は、今後さらなる拡大が期待される一方、高度運転支援システム分野・テレマティクス分野における技術開発面での競争がグローバルで熾烈化しています。当社は、自動運転・コネクティッド・電動化などの市場の変化と拡大を着実に捉え、新たな発展に挑戦してまいります。

■ 会社概要

社 名 株式会社デンソーテン

所 在 地 本社
〒652-8510 神戸市兵庫区御所通1-2-28
TEL 078-671-5081

代 表 者 代表取締役社長 岩田 悟志

設 立 1972年10月25日

資 本 金 53億円 (2018年3月31日現在)

株 主 株式会社デンソー
トヨタ自動車株式会社
富士通株式会社

主な事業 ■ V-ICT事業

クラウド連携ドライブレコーダー、緊急通報システム、マルチアングルビジョン、ミリ波レーダーなど

■ CI事業

ディスプレイオーディオ、カーナビゲーション、CDチューナーなど

■ AE事業

エンジン制御ECU、エアバッグECU、ハイブリッド車用ECU、電動パワーステアリング ECUなど

■ 国内拠点

- 株式会社デンソーテン
- 株式会社デンソーテンマニュファクチュアリング
- 株式会社デンソーテンテクノセプタ
- 株式会社デンソーテン販売
- 株式会社デンソーテンリサーチ
- 株式会社デンソーテンスタッフ
- 株式会社デンソーテンテクノロジー
- 株式会社デンソーテンサービス

■ 海外拠点

アジア / オセアニア

- オーストラリア DENSO TEN AUSTRALIA PTY. LTD. (TNAU)
- フィリピン DENSO TEN PHILIPPINES CORPORATION (TNPH)
DENSO TEN SOLUTIONS PHILIPPINES, CORPORATION(TNSP)
- タイ DENSO TEN (THAILAND) Limited (TNTH)
- シンガポール DENSO TEN SINGAPORE Private Limited (TNSG)
- インド DENSO TEN MINDA INDIA Private Limited (TNMI)
MINDA D-TEN INDIA Private Limited (MTNI)*
- インドネシア PT. DENSO TEN MANUFACTURING INDONESIA (TNIA)
PT. DENSO TEN AVE INDONESIA (TNAI)*
- 韓国 DENSO TEN KOREA Limited (TNKR)
- 中国 電装天(中国)投資有限公司 (TNCH)
電装天電子(無錫)有限公司 (TNWX)
電装天精密電子(天津)有限公司 (TNPT)*
電装天国際貿易(天津)有限公司 (TNIT)
電装天研究開発(天津)有限公司 (TNRT)

ヨーロッパ

- スペイン FUJITSU TEN ESPAÑA, S. A. (FTESA)
- ドイツ DENSO TEN EUROPE GmbH (TNEU)

米州

- アメリカ DENSO TEN AMERICA Limited (TNAM)
DENSO TEN TECHNOSEPTA USA, Limited (TNTA)*
- カナダ DENSO TEN CANADA INC. (TNCN)
- メキシコ DENSO TEN de MEXICO,S.A.de C.V.(TNMX)
- ブラジル DENSO TEN DO BRASIL LTDA. (TNBL)

資本構成および社名の変更について

富士通テン株式会社は、2017年11月1日付けで資本構成を変更し、併せて社名を変更しました。

今回の変更は、当社の株主である、株式会社デンソー、富士通株式会社、トヨタ自動車株式会社より、2016年9月9日に発表された、「富士通テン株式会社の資本構成の変更に向けた検討に関する基本合意について」に基づくものです。

◎新社名(商号)：「株式会社デンソーテン」
(英文表記：DENSO TEN Limited)

◎新ロゴマーク： **DENSO TEN**

当社は、1920年に創立した川西機械製作所に始まり、1949年に設立した神戸工業株式会社を前身としています。1968年に富士通株式会社と合併した後、1972年に富士通のラジオ部門が分離・独立して富士通テン株式会社として設立いたしました。

以来、カーエレクトロニクスメーカーとしてさまざまな製品、サービスを提供してまいりました。

近年は、「単体製品のサプライヤー」から「つながる車載情報機器・サービスを提供・提案するシステムサプライヤー」への変革をめざし、新たな価値を創り出すVehicle-ICT事業を強化しています。

今後は、デンソーグループの一員として、車載ECU(Electronic Control Unit:電子制御装置)やミリ波レーダー、高度運転支援・自動運転技術および電子基盤技術などの開発をいっそう強化してまいります。

資本構成(出資比率)の変更内容

	変更前	変更後
株式会社デンソー	10%	51%
富士通株式会社	55%	14%
トヨタ自動車株式会社	35%	35%

CSR 報告書2018を読んで



阪 智香 (さか ちか)

関西学院大学学長補佐・商学部教授・商学博士
現在、日本学術会議連携会員、大阪府環境審議会委員、日本経営分析学会理事、日本ディスクロージャー研究学会理事、日本社会関連会計学会理事等。著書に『環境会計論』(東京経済情報出版)等。日本会計研究学会 学会賞受賞。

全 体

今年の報告書では、すべての活動について、CSRの5つの重点課題分野と、国連のSDGs(持続可能な開発目標)との関連付けが示されています。このことで、ダイジェスト版のCSR報告書は、読みやすさがさらに改善されました。また、SDGsの17目標のうち12目標がカバーされており、デンソーテンの活動が包括的に実施されていることは高く評価できます。

重点課題分野別の取り組み

「消費者課題」では、自動車産業の新しい品質マネジメント規格「IATF16949」を業界で先駆けて取得し、また、最近の他社のコンプライアンス違反を意識した品質意識の向上・人材育成の取り組みが行われるなど、高い水準の取り組みがなされています。

「環境」は、グリーンサイト(生産)、グリーン調達・グリーン物流、グリーンプロダクツ、マネジメントシステム、環境リスク対応の全領域にわたりバランス良く丁寧な活動と、詳細版では18頁に及ぶ詳細な情報開示がなされています。業界初でISO14001:2015のグローバル統合認証を取得したことからも高い組織力・対応力が伺えます。

「人権・労働慣行」では、介護・仕事の両立支援の強化や障がい者雇用の新基準達成などの他、2018年度を健康経営元年と位置づけ、健康宣言が盛り込まれるなど、SDGsに沿った労働環境向上の取り組みも着実に具体化されています。

「公正な事業慣行」では「紛争鉱物方針」も明らかにされました。

この他に、情報セキュリティ強化の体制づくり、多様な地域貢献活動などの情報が盛り込まれ、読み応えのある報告書となっています。

エコビジョンと今後に向けて

今年の報告書では、従来の地球環境憲章と環境中長期VISIONを統合し、新しく制定された「エコビジョン」が目を引きます。その「コミット2025」は極めて意欲的な内容で、パリ協定や2050年ゼロエミッションに向けて、車のCO₂半減、工場のエネルギーハーフ、排出物・廃棄物・水使用量の半減などが掲げられています。既に「環境取り組みプラン」も見直されていますが、限界削減費用が高いわが国において、今後の取り組みはこれまでにないレベルにまで高める必要があるでしょう。

そのために1つは、グローバル・バリューチェーンをより意識した活動が必要です。環境負荷の多くはサプライチェーンの上流で生じています。デンソーテンでは、サプライチェーンの観点から、既に温室効果ガス排出量算出、4次までのサプライチェーン情報整備(SCR-Keeper)などがなされています。この貴重な情報基盤を活かし、企業の壁を越えて協力することで、環境負荷削減と資源生産性の双方を向上させる新たなブレイクスルーが見いだせるのではと思います。

2つめは、環境・CSRと企業価値のリンクの見える化です。既に導入されている「環境経営比較評価」は、「運用改善と企業価値」と「マネジメントシステム」を評価する優れた仕組みですが、CSR報告書の諸活動と企業価値が具体的にどのようにリンクしているかも関心のあるところです。

デンソーテンの今年の報告書は、SDGsやパリ協定といった世界の動きをいち早く自社のエコビジョンや活動に取り入れ、コミットする強い覚悟と責任感が伝わるものです。今後に向けてステークホルダーの期待も高まります。

ご意見をいただいて



株式会社デンソーテン
取締役執行役員常務

森下 拓

阪先生にご意見をいただくのは3年目になります。今回も当社のCSR活動について、重点課題分野別に詳細に評価していただき、また貴重なご意見を賜り、厚くお礼申し上げます。

当社は昨年、世界的なCSRの重要性の高まりを踏まえ、当社の活動をより社会の期待や要請に沿ったものにしていくための第一歩として、CSR活動とSDGsとの関連づけを行いました。これにより、SDGsで示された課題の中には、当社のめざす方向との一致が

多くあることを明確にすることができたと考えています。

今後は、SDGsの各目標について当社が事業を通じてどのように貢献できるか、重点的に取り組む課題を明確にするとともに、ご指摘いただいた「CSR活動と企業価値とのリンクの見える化」に向け、管理指標の設定などにも引き続き取り組んでまいります。

また、今回高く評価していただいたエコビジョンは、当社にとってもチャレンジングな目標と認識していますが、その達成に向けて、サプライチェーン全体での活動を推進してまいります。

私たちは、自由で快適なモビリティ社会の実現に向けて、環境変化や社会の期待を敏感に捉え、「誠」を大切にしながら事業活動を推進することで、社会的課題の解決に貢献し、信頼される企業をめざしてまいります。

株式会社デンソーテン

〒652-8510 神戸市兵庫区御所通1-2-28

お問い合わせ先
コーポレートセンター 地球環境室
TEL: 078-682-2063

発行：2018年9月
次回発行予定：2019年9月